



# 第10回ILCA (International Liver Cancer Association)

小川 力

高松赤十字病院消化器内科副部長

記念すべき第10回を迎えたILCAは9月9日から11日まで、カナダのバンクーバーで開催された。バンクーバーはカナダの西の玄関口として親しまれ、トロント、モントリオールに続くカナダで第3の規模をもつ大都市でありながら自然も多く、「世界で住みやすい都市」の上位にいつもランキングされる都市である。会場はそのバンクーバーの中心地にあり、過去に各国の要人が多く利用し、バンクーバーのシンボリックホテルである、The Fairmont Hotel Vancouverであった。

ILCA 2016の参加は世界46ヵ国600名を超えた。演題数は329演題で、上位5ヵ国は韓国、米国、日本、フランス、中国で、アジアが過半数を占めた。

今回の学会での日本人のoral presentationは3題あり、

9月10日の午前中に近畿大学の上嶋一臣先生が、日本の実臨床に合わせたIntermediate stage(BCLC B)の亜分類を目的として開発されたKinki Criteriaの妥当性を日本肝癌研究会(LCSGJ)の全国調査データ46,997例を用いて評価した。BCLC B亜分類のMSTはBCLC B1が71.9ヵ月、BCLC B2が52.0ヵ月、B3-aが34.2ヵ月、B3-bが21.1ヵ月で、各群間で有意な差を認めた( $p < 0.001$ )。また、Kinki Criteriaは、簡便で、各亜分類に対する治療が示されたことから、実臨床に有用であると考えられる。

9月10日の午後には東京大学の國土典宏教授が、日本での門脈腫瘍栓(PVTT)を伴う6,474例のHCCにおける外科切除(LR)症例と、それ以外の治療症例の検討について報告を行った。BCLCのガイドラインではPVTTを



写真1 会場の The Fairmont Hotel Vancouver



写真2 國土典宏教授